



かたぐい

学校教育目標

夢ふくらませ 心かがやく



令和5年度
第46号

2023. 11. 27

6年佐藤呼幸さんがJAの大会で作文発表をしました！

25日（土）に、大仙市大曲市民会館で行われた「JA秋田おばこ女性大会並びにJA秋田おばこ家の光大会」（JA秋田おばこ女性部・秋田おばこ農業協同組合共催）で、JA秋田おばこ管内の小学生を代表して6年のS.Kさんが作文を発表しました。作文の内容は、JAグループ家の光協会が発行している子ども向け月刊誌『ちゃぐりん』（毎月、小学校に寄贈されています。）を読んだ感想です。

S.Kさんは、『ちゃぐりん』の中の「わたしたち農協探検隊」という記事とお父さんの仕事を結びつけ、そこから「身近な人から学んだ大切なこと」というテーマで作文にまとめています。当日の発表も、堂々としていてとても立派でした。会場の参加者にS.Kさん自身の思いをしっかりと伝えることができました。



「身近な人から学んだ大切なこと」

西明寺小学校 6年 S.K

突然ですがみなさん、生きるために必要なものと言えば何を思い浮かべますか。水や空気はもちろん、住む場所、仕事、お金などいろいろあると思います。「ちゃぐりん」には食に関することをはじめとして、生きるために大切なことがたくさん書かれていました。

私が特に興味をもったのが、「わたしたち農協探検隊」です。それには、農協の意味をはじめ、農作物が私たちに届くまでの仕組み、1ターンの就職サポートなど、様々な農協の仕事がのっていました。私は、農協は農作物を作っているところだと思っていたので、様々な仕事があることにとても驚きました。

中でも、女性部の活躍がとても印象的でした。育てた野菜で作ったおいしそう加工品、そして販売。お母さんたちの悩みを聞いてアドバイスもします。女性の活躍は、地域全体の元気にもつながると思いました。私は、農協で働く人のことをもっと知りたいと思うようになったので、近くのJA秋田おばこで聞いてみることにしました。

JA秋田おばこで働く人、実は私の父がその一人です。私は、今まで父の仕事は野菜を育てることだと思っていました。でも、いろいろ質問してみたら、全く違う父の姿が見えてきました。

父は、農家の野菜栽培の手助けをしています。営農指導と呼ぶそうです。農家と話をしながら、うまく栽培できるように導く仕事です。しかし、野菜がうまく育たない、虫や病気がついてしまった、大雨、全く雨が降らないなど、様々な問題が起き、苦勞することもあるそうです。農家の要望に応える努力はするものの、自然が相手なこともあり、思うようにいかない時もあるようですが、そんな時は、多くの農家と話をすることが大切だと言いました。例えば、同じ種類の野菜でも様々な栽培方法があるそうで、より多くの農家と話をし、その中で得た知識を他の農家に伝えることで、手助けをすることもあるそうです。それは、農家全体の栽培技術の向上にもつながっていくそうです。アドバイスをして、栽培をうまく導くことができた時、農家の方が言ってくれる「よかった。ありがとう。」その言葉が一番うれしい、そう話していました。

仕事で大切なことは何かと質問すると、人とのコミュニケーション、つながりだと言いました。その中で勉強をする日々、その積み重ねが大切だと教えてくれました。

私は、父の話を聞いて、父が大切にしている農家の方とのつながりのように、人と人との関わりを大切にしたいと思いました。様々な問題にぶつかっても、それを農家の方と一緒に乗り越えた時に得られる大きな喜び、それはとてもすてきな瞬間なんだろうなと思いました。農家のみなさんとのつながりを大切にしようとする、要望に応えようとする、そして何より難しいことを乗り越えようと挑戦すること、父がそうするのは、農家のみなさんの役に立ちたい、一緒にがんばりたいという強い思いがあるからではないかと思いました。私も、難しいことや大変なことにぶつかります。投げ出しそうになることもありますが、父のように、粘り強く挑戦してみようという気持ちになりました。

今回、「ちゃぐりん」を読み、そして父の話を聞いて、農協のみなさんが、食に関するを中心に、様々な役割で支えていることを知りました。そしてそこには、関わるたくさんの人のたくさんの思いが詰まっていることが分かりました。

私は将来、どこでどんな仕事をしているのかわかりませんが、身近にいる農協のみなさんのように、そして父のように、人と人とのつながりを大切に、誰かの役に立てる人間になりたいと思います。

生きるために必要なこと、今後も私が出会う多くの人から学んでいきたいです。

